

国立病院機構熊本医療センター

No.251



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601



本年度も臨床研修医を迎えました

今年もフレッシュな新研修医を25名迎えました。研修コース毎の内訳は、総合臨床研修プログラム15名（定員16名）、プライマリケア臨床研修プログラム3名（定員3名）、歯科医師臨床研修プログラム1名（定員2名）、および1年次協力型として熊大Cプログラム2名、2年次協力型として熊大Aプログラム4名になります。当院持ち上がりの2年目17名（総合臨床研修プログラム14名、プライマリケア臨床研修プログラム3名）とあわせて総勢42名と昨年に次ぐ大所帯になり、現在医局は大変活気に溢れ、若い力がみなぎっ

ています。4月2日から10日に渡って実施されたオリエンテーションやガイダンス、新任職員宿泊研修・医療現場の接遇研修、および各部門別の実習も終了し、現在、各診療科での臨床研修が開始されたばかりです。新研修医の初々しく率直な振る舞いに、自らを顧みる良い機会にもなり日々の診療に元気をわけてもらっています。当院での研修を希望した皆の期待を裏切らないよう、より良い研修プログラムの構築を目指して努めて参りたいと存じますので皆様方の御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（教育研修部長 富田正郎）

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



医法) 山部会
上代成城病院

院長 杉之原 賢治



貴院のアピールをお願いします

当院は、2018年2月1日に、田崎市場の南西角に隣接した西区上代の地に、北区室園町のくまもと成城病院から82床分を部分移転の形で、新規開院した新しい病院です。回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟を主体に、熊本市西区および周辺にお住まいの方々に、自宅近くで短期入院もしくはじっくりとリハビリを受けていただけるよう、近隣の診療所の先生方と連携しながら、地域医療に貢献できるよう職員一同奮闘中です。

当院へのご要望をお聞かせ下さい

2018年4月から医療療養病棟に加えて一般病床が稼働し、5月からは回復期リハビリ病棟がスタートします。当院で対応できる疾患病態であれば、転院依頼にお答え致しますのでご紹介下さい。お引き受けできるのは、脳卒中や神経外傷・脳腫瘍など脳神経疾患、整形外科疾患の術後や保存的治療、その他急性期治療中に筋力が低下し直接自宅退院が難しいなど、リハビリを必要とする方や、救急外来で精査し治療方針が決定した短期入院治療を要す方、更に悪性疾患終末期で緩和ケアが必要な方も、受け入れ準備を整えています。



先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

趣味は散歩です。以前は仕事帰りの夕方から夜にかけて、最近は休みの日中、水前寺江津湖公園のゾウ・キリン舎を横目に江津湖艇庫から下江津北岸の遊歩道を広木地区まで、ルート次第で往復45~65分、自然に触れ合いながらの散歩は、気分がリフレッシュでき、しかも構想中の講演内容などが意外にもよくまとまります。散歩で運動・精神衛生に加え仕事まではかどり、やみつきです。

診療科目	内科、リハビリテーション科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、代謝内科、緩和ケア内科、放射線科
診療時間	月～金 9:00～12:00 13:30～17:00
休診日	土曜・日曜・祝祭日
住所	〒860-0068 熊本市西区上代2丁目2-25
T E L	096-356-1515
関連施設	くまもと成城病院 住宅型有料老人ホーム「メディケアホーム ヒルズ成城」

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者さまの御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのことご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者さまからの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693**

月～金(祝日を除く) AM 8:30～PM 17:00



就任のご挨拶



看護部長
認定看護管理者
いずみ さなえ
泉 早苗

4月1日看護部長に就任しました。よろしくお願いたします。満開の桜の歓迎を受け、熊本城正面から加藤清正像を背に病院に向かい歩みを進めていると、御幸坂の立ち入り禁止、城壁の崩れている様が目に飛び込み、地震の爪あとの痛々しさが心に突き刺さります。それでも桜は、負けてなるかとその花の美しさに決意と闘志を秘め咲き誇っていました。おりしも熊本城の屋根を覆っていた白いテントが取り払われるニュースが流れ、20年の永きに渡る再興の一步が見え、着実

に変化している事を実感しました。

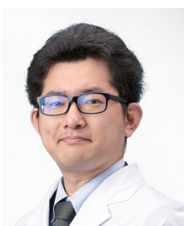
当院は、病床数550床、33診療科を有す高度総合診療施設として、「24時間365日断らない」救急医療を実践しております。前任者の思いや熱意をしっかりと受け止め、これまでに築いてきたもの、未来に繋がれたものを引き継いでいきたいと思ひます。今後ますます在宅医療が進んでいく中で、地域医療を担う皆様と連携をとり、地域のニーズに応えられる医療・看護の質の向上に努めてまいります。ぜひ忌憚なきご意見をお寄せください。



神経内科医長
こうざき やのすけ
幸崎 弥之助

本年4月から神経内科で勤務させていただき幸崎弥之助と申します。前任地は八代の熊本労災病院でした。平成26年度まで11年間、熊本医療センターでお世話に

なり、3年間の熊本労災病院勤務を経て、今回戻ってくることとなりました。もうおおよそ20年ほど前になりますが、国立熊本病院の時代にも研修医としてお世話になりましたので計3回目の勤務となり、自分にとって縁深い場所なのだと思います。旧知のスタッフの方々とは再び一緒に働けることがとても楽しみであるとともに、初めてお会いするの方々にも早く溶け込めますよう精進いたす所存です。皆様どうぞよろしくお願い致します。



眼科医長
えいき だいすけ
榮木 大輔

本年4月より眼科に赴任致しました。3年前は下端としての勤務でしたが、今回は医長となり前にも増しておっかなびっくりしながら勤務させていただいております。ご迷惑をおかけする事もあるかと思ひますが何卒宜しくお願致します。

共同指導をご活用下さい

先生方には日頃より患者さまのご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者さまがご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者さまは、かかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご不明な点がございましたら、地域医療連携室（096-353-6693）にお気軽にお問い合わせ下さい。

当院へご紹介頂いた患者さまの最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご活用下さい。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

就任のご挨拶



企画課長
ひぐち かずひろ
樋口 和宏

皆様、こんにちは。

4月1日付配置換えで参りました企画課長の樋口でございます。7年振りの熊本勤務となります。

当院での勤務は初めてであり、市街地の喧噪も久し

ぶりのもので新鮮さを感じているところです。

さて、熊本医療センターは診療実績、経営状況においても機構内トップクラスの施設であり、そこに席を置き皆様と共に業務に携われることを大変嬉しく思います。

新外来棟の建設、駐車場の問題等、取り組まなければならない仕事と課題は山積している事を認識し、早く仕事と環境に慣れ、患者さまのため、病院のため、お役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



臨床検査技師長
えすみ まこと
江角 誠

4月1日付けで南九州病院から参りました臨床検査技師長の江角でございます。6年ぶりに熊本医療センターへ復帰しましたが、以前よりも救急車の年間台数が増えるとともに、検査件数も増加しており、改めて

当院の熊本北部地区における位置づけを認識し、身が引き締まる思いです。当臨床検査科の基本理念（1. 患者さまの立場に立ち検査を行う。2. 迅速で正確な検査データを提供するように常に努力する。）に則り、患者さまのご要望に添えるよう最新の機器、測定法を整備導入し、日々高精度な検査データを提供できる体制を整えています。

また、当院が掲げる365日24時間断らない救急医療の一翼を担い、地域に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



理学療法士長
たなか まさのり
田中 正則

4月1日付けで福岡東医療センターから配置換えで参りました田中と申します。熊本に赴任して1週間でございますが、改めて震災の甚大さに驚きを感じており、この場をお借り致しまして心よりお見舞い申し上げます。

“とびうめネット”から“りんどうネット”へ移りますが、前任地で電子カルテの改造を通じて病診連携における情報の受け渡しの重要性は実感致しております。開業医の先生方がお持ちの在宅医療における障害の社会的モデルの可視化によって、私どもが取り組んでおります救急医療におけるクリティカルパスの品質が向上するものと信じております。

先生方に信頼される障害の予後予測と、大量の医療資源投入後の安全な在宅生活デザインの確立に、リハビリスタッフ一同で取り組んで行く所存です。

本年度も引き続きご高配賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。



副看護部長
つしまる ゆきこ
辻丸 祐規子

4月1日付で嬉野医療センターから配置換えで参りました辻丸と申します。どうぞよろしくお願い致します。着任時は熊本の桜が葉桜となり少しさみしい気持ちでしたが、研修センターで辞令を受け取る出席者の

皆さまの熊本医療センターで働く期待と活気に溢れた表情に圧倒されました。平成30年度当院の運営ビジョンは、「断らない救急医療24時間365日～地域に根ざした質の高い高度な医療の提供～」と掲げられています。熊本での勤務が初めてなため、地域医療に関して知識不足があります。1日でも早く熊本医療センターを理解し地域の特徴を知り、質の高い高度な医療の提供のため地域を含めた職員教育・人材育成のために努力していきたいと思っております。不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが何とぞご指導のほどよろしくお願い致します。

国際医療協力「JICA 研修」マレーシア国別

2018年3月6日に、マレーシアから12名の研修員が日本の高齢者医療・ケアを学ぶために来日しました。

マレーシアの高齢者人口は増加傾向にあり、このためマレーシア保健省は1996年に高齢者を対象とした保健医療制度／サービスを導入しました。そして今、提供する保健医療サービスを「エイジング・イン・プレイス」（高齢者が住み慣れた地域の中で暮らしていくこと）の概念に基づいて実践していくことが課題となっています。

研修員は、地域医療施設において高齢者への医療・ケアにかかる政策・活動計画立案、事業実施、サービ



開講式



閉講式直後の記念撮影

ス提供などに携わる医師、看護師、作業療法士、理学療法士で構成されていました。地方自治体、大学、JICA、そして高齢者に真摯に向き合っている病院・施設の協力を得て、日本の高齢化社会の現状、介護保険制度の概要、そして今取り組まなければならない若者の負担減、労働力減少への対策などについて理解し、リハビリや認知症予防への取組みを学びました。そして、3月30日に帰国した研修員は、マレーシアのこれからの保健医療政策・施策を担っていくこととなります。
(国際医療協力 西 泰美)

看護学校入学式

4月6日、平成30年度入学式を挙行了いたしました。院外からのご来賓の皆様ご列席のもと、72期生39名の入学を見守って頂きました。新入生は、このあと3年間で98単位3000時間を履修していくことになります。私たち職員は72期生が「質の高い看護実践ができる専門職業人」となるよう学生を支援してまいります。保健医療福祉にかかわる地域の皆様、ならびにボランティア活動などを通し若い学生たちにかかわってくださっている地域の皆様、72期生39名をどうぞよろしくお願いたします。

本校に入学することを目標としていたため、諦めずに努力をし続けた日々を思い出すとともにその努力を次は自分が理想とする看護師に近づくための努力へと繋げていきたいと改めて心に誓いました。

先輩方を手本としながら、同期の仲間とともに看護について学んでいきたいと考えています。

(72期生代表 藤井碧)



72期生39名



新入生代表挨拶

「新任職員宿泊研修会」が行われました

平成30年4月6日（金）7日（土）に、医師・レジデント18名と研修医25名を含む合計72名が参加して、平成30年度新任職員宿泊研修会が阿蘇熊本空港ホテル・エミナースで開催されました。1日目は、当院の高橋毅院長による「当院における救急医療体制の構築の歴史」と題する講演が行われ、「落ち穂拾い」の精神を忘れずコツコツ努力を積み重ねた結果、全国有数の救急病院にまで至った経緯について学ぶことができました。また、その後は意見交換会が行われ、参加者は互いの親睦を深めました。



参加者全員で記念撮影



接遇研修の様子

2日目は、ANAビジネスソリューションの目代久美子先生による「医療現場の接遇研修」が実践形式で行われ、午後からは、当院の原田正公救命救急センター長により「救急外来診療の実際」の講演が行われました。研修会で学んだことを今後の業務にいかして行きましょう。（庶務班長 毛利安則）

第96回 日本消化器病学会九州支部

市民公開講座を開催して

2018年3月10日熊本県民交流館パレアにおいて第96回日本消化器病学会九州支部市民公開講座を開催しました。テーマは「おなかの病気をよく知ろう～最近話題の消化器病治療～」で、4題の講演と質疑応答で構成しました。

準備から当日のパレアホール会場設営、受付、進行すべて消化器内科の医師、看護師、医師事務作業補助者で行いました。13時20分開会挨拶で始まり、13時30分より「おなかの細菌と病気の話」を中田成紀医長、「消化管早期がんの内視鏡治療」を松山太一医長、「ストレスと胃の痛み～機能性ディスペプシアの話」を浦田昌幸医長、「体にやさしい肝炎・肝がん治療」を杉が講演しました。それぞれわかりやすい言葉で、最新の検査・治療に関して動画を交えて説明し、参加者の皆様は熱心に聞き入っていました。講演後の質疑応答では、予定された時間が足りない程質問があり、演者は丁寧なそれに答えました。16時の閉会挨拶で終了しました。参加者は約137名で会場はほぼ満席状態でした。

参加者からは概ね好評の感想を得ることが出来ました。

初めての市民公開講座運営で不慣れな点が多かったのですが、消化器内科スタッフの一丸となって協力し合い、成功裏に終わりました。

市民公開講座の機会を与えていただいた向坂彰太郎日本消化器病学会九州支部長を始め、関係の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（診療部長 消化器内科部長 杉 和洋）



消化器内科スタッフ

二の丸モーニングセミナーのご案内

本セミナーは研修医の教育のために行われている講義ですが、研修医だけではなく一般医師、コメディカル、看護師の皆様にも大変役に立つ内容となっています（これからの内容は以下の通りです）。年間を通じて毎週木曜日の朝8時15分より8時45分まで、当院の地域医療研修センターホールにて行っています。院外の医療関係者の皆様の御出席を歓迎いたします。

開催日	担当診療科	演説者	テーマ
2018/ 4/ 5	休み		
2018/ 4/12	院長	高橋 毅	研修医に望むこと
2018/ 4/19	副院長	大塚 忠弘	医療安全について
2018/ 4/26	副院長	清川 哲志	医療の質について
2018/ 5/ 3	憲法記念日		
2018/ 5/10	統括診療部長	渡邊 健次郎	医療連携について
2018/ 5/17	臨床研究部長	日高 道弘	輸血療法について
2018/ 5/24	感染制御室長	水上 智之	院内感染対策について
2018/ 5/31	教育研修部長	富田 正郎	輸液療法について
2018/ 6/ 7	麻酔科部長	瀧 賢一郎	血液ガスについて
2018/ 6/14	循環器内科医長	宮尾 雄治	心電図の読み方
2018/ 6/21	感染症科医長	小野 宏	抗菌薬の使い方
2018/ 6/28	院内警備統括	西村 一弥	院内暴力と対処法
2018/ 7/ 5	企画課専門職	竹下 浩史	クレーム対応
2018/ 7/12	救急医療支援	後藤 達広	病院における防災について
2018/ 7/19	救急科医長	北田 真己	災害医療について
2018/ 7/26	麻酔科部長	瀧 賢一郎	麻酔科に関する話（仮）
2018/ 8/ 2	放射線科医長	根岸 孝典	救急疾患の画像診断
2018/ 8/ 9	休み		
2018/ 8/16	休み		
2018/ 8/23	外科医長	水元 孝郎	外傷初期診療
2018/ 8/30	循環器内科部長	藤本 和輝（仮）	循環器内科に関する話（仮）
2018/ 9/ 6	心臓血管外科部長	岡本 実（仮）	心臓血管外科に関する話（仮）
2018/ 9/13	呼吸器内科医長	名村 亮（仮）	呼吸器内科に関する話（仮）
2018/ 9/20	脳神経外科医長	中川 隆志	脳神経外科に関する話（仮）
2018/ 9/27	消化器内科部長	杉 和洋（仮）	消化器内科に関する話（仮）
2018/10/ 4	神経内科医長	幸崎 弥之助（仮）	神経内科に関する話（仮）
2018/10/11	外科部長	宮成 信友（仮）	外科に関する話（仮）
2018/10/18	産婦人科部長	西村 弘（仮）	産婦人科に関する話（仮）
2018/10/25	泌尿器科部長	菊川 浩明（仮）	泌尿器科に関する話（仮）
2018/11/ 1	薬剤部長	中川 義浩	薬剤部からのフィードバック
2018/11/ 8	医療安全係長	堂園 千代子	リスクマネジメントからのフィードバック
2018/11/15	休み		
2018/11/22	病理診断科部長	村山 寿彦	病理診断の実際－臨床情報の重要性－
2018/11/29	腎臓内科医長	梶原 健吾	CKDについて
2018/12/ 6	糖尿病・内分泌内科部長	西川 武志（仮）	糖尿病・内分泌内科に関する話（仮）
2018/12/13	血液内科医長	原田 奈穂子	血液検査のみかた
2018/12/20	総合診療科医長	辻 隆宏	不明熱について
2018/12/27	腫瘍内科医長	山本 春風	腫瘍内科総論
2019/ 1/ 3	年末年始		
2019/ 1/10	放射線科医長	富高 悦司	放射線治療について
2019/ 1/17	精神科医長	橋本 聡	当院における精神科救急への取り組み
2019/ 1/24	小児科医長	水上 智之（仮）	小児科に関する話（仮）
2019/ 1/31	皮膚科医長	牧野 公治	皮膚科 感染症から学ぶ救急～下の巻～
2019/ 2/ 7	整形外科部長	橋本 伸朗（仮）	整形外科に関する話（仮）
2019/ 2/14	形成外科部長	大島 秀男（仮）	形成外科に関する話（仮）
2019/ 2/21	耳鼻咽喉科医長	上村 尚樹	救外での耳鼻咽喉科応急処置
2019/ 2/28	眼科医長	榮木 大輔（仮）	眼科に関する話（仮）
2019/ 3/ 7	歯科口腔外科	谷口 広祐	頭頸部外傷～基礎編～
2019/ 3/14	救急科医長	原田 正公	救急科に関する話（仮）
2018/ 3/21	春分の日		
2019/ 3/28	教育研修科長	原田 正公	臨床倫理



<問い合わせ先>

国立病院機構熊本医療センター

教育研修科長 原田 正公

電話 096-353-6501（代表）、Eメール: masakoh@kumamed.jp



No.248

糖尿病・内分泌内科 (No. 9)

最近のトピックス

糖尿病患者における周術期 血糖管理の意義と方法

糖尿病・内分泌内科部長

西川 武志

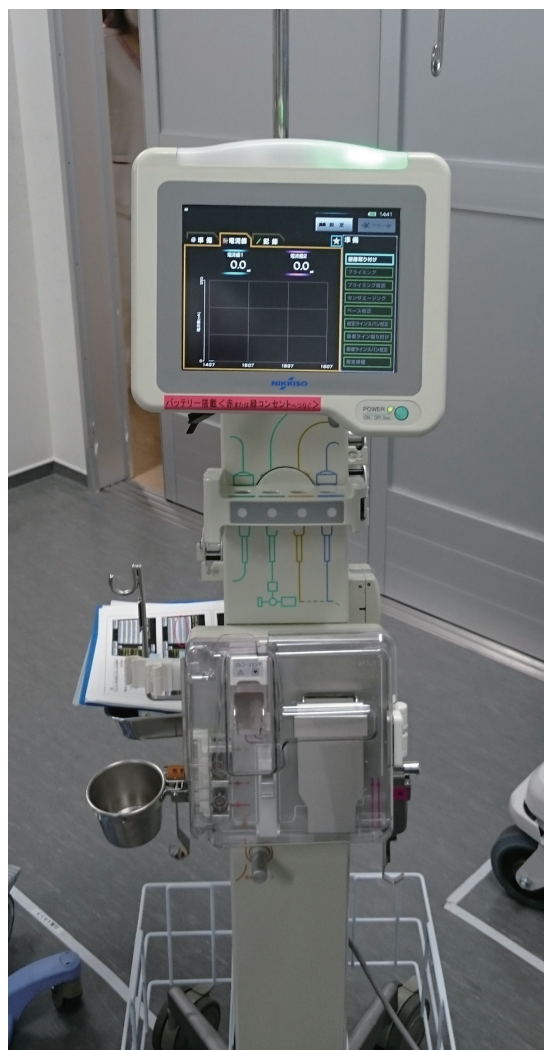


糖尿病患者では糖尿病がない方と比べ、生涯にわたって手術を受ける確率が高いことが知られています。また糖尿病患者では虚血性心疾患などの血管合併症も多く、さらに術後感染、電解質異常をはじめとした術後合併症の頻度が高いことも知られています。このため糖尿病患者においては術前からの周到な準備、周術期における細やかな血糖管理が不可欠です。

術前の血糖管理の方法としては、インスリン強化療法を行います。これは経口血糖降下薬ではインスリンのような細かな管理ができないこと、経口血糖降下薬にはメトホルミンの乳酸アシドーシス、スルホニル尿素薬やグリニドの遷延性低血糖、 α グルコシダーゼ阻害薬やDPP4阻害薬の消化器症状など様々な副作用があり、これらの副作用が周術期に出現する恐れがあること、そもそも経口血糖降下薬は食事摂取が前提であり、食事摂取ができない可能性がある周術期は適応にならないなどの理由によります。添付文書上もすべての経口血糖降下薬は周術期管理には禁忌となっています。また糖尿病学会発行の糖尿病治療ガイドにも、中等度以上の外科手術（全身麻酔施行例など）はインスリン療法の絶対的適応と記載されています。従って当科においても、糖尿病患者で現在血糖管理が不良の方は入院の上、インスリン強化療法を行います。さらに、経口血糖降下薬で血糖管理が良好な方においてもインスリン強化療法に変更します。糖尿病患者では糖尿病がない方に比べ、手術までの準備に時間を要します。しかしこの時間は術後合併症の予防のためには必要なものと考えています。

糖尿病患者では、術後の血糖管理も重要です。食事摂取ができない状況下におきましてはインスリンの静脈内投与で血糖を管理しています。食事摂取が可能になりましても感染症予防の観点から病状が安定するまではインスリン強化療法で血糖管理を行います。また1型糖尿病患者、膵臓や肝臓の手術など、血糖管理に難渋する恐れのある症例におきましては、人工膵臓（写真）による血糖管理を積極的に行っています。人工膵臓を用いることにより、より安全に厳格な血糖管理を行うことができます。

周術期の血糖値は米国糖尿病学会ガイドラインで示されている目標血糖値140-180mg/dLで管理します。この目標血糖値を達成し、術後合併症を予防することは、糖尿病専門医の腕の見せ所でもあります。



人工膵臓

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ122回

熊本医療センター精神科ソーシャルワークの特徴

地域医療連携室 ソーシャルワーカー

安藤秀陸 西迫はづき 村上良子 坂本陽子 新開貴夫 三浦由江 立花律子

医療機関に勤務するソーシャルワーカー（以下、SWと称する）は、患者さまやご家族の生活・社会問題の解決の援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、「その人らしいライフスタイルの獲得」を目標としています。

その呼び名は、MSW、PSW、医療ソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士、相談員など、様々です。資格の根拠法や対象の違いはありますが、基本は同じ福祉相談を行う者です。

熊本医療センター（以下、当院と称する）は、「365日24時間断らない救急医療」をスローガンとして、日々、救急患者さまの受入れを行っています。

又、精神科を有する総合病院は県内には当院しかなく、多くの身体合併症（例えば、認知症＋維持透析、統合失調症＋肺炎、鬱病＋高度るいそう等）を有する精神科患者さまを受入れているという特色を持っています。その特徴から今回は当院の精神科ソーシャルワークの現状について考察しました。

まず、当院の精神科医療の現状として、精神科病床は50床あり、平均在院日数は19.9日/月の中で、スピーディーな患者支援が求められます。SWはいわゆるソーシャルハイリスク患者（虐待、無保険、DV被害、独居認知症高齢者、ホームレス、外国人、身元不明者等）や自傷・自殺未遂者（過量服薬、リストカット、縊首、

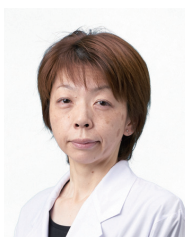
ジャンピング等）、措置入院・医療観察法の患者さまの福祉相談支援、転院・退院調整を行っています。

その他、救急外来を受診される患者さまで精神科領域の問題（アルコール依存症、過量服薬、妄想性障害、摂食障害 等）を抱えておられる方の経済問題や他機関連携を行っています。

当院のSWの支援を振り返ると、短期間での支援になる為、福祉的な視点を活かした支援が行われているかが、外部から見えづらい現状もあります。又、当院だけでは、問題解決が困難な患者支援もあり、SWは切れ目ない支援を行うにあたり、地域へ繋ぐ役割を担っています。そういった現状も踏まえながら、日々の業務と合わせて、専門職として、他機関との連携、特に相互理解を目的とした、事例検討会などを行うことで、患者支援の向上を図ることや、良好な地域連携に効果が期待できるのではないかと考えます。



新任職員紹介



神経内科
あまの ともこ
天野 朋子

平成30年4月より、神経内科で勤務させていただく天野朋子と申します。出身大学は、産業医科大学です。

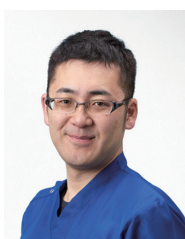
長く八代で勤務させていただいており、熊本市内の病院勤務は2年間の大学病院以外は今回が初めてです。特定の疾患の専門はありませんが、神経内科疾患全般の患者さまに納得のいく医療を提供すると同時に、精神的な問題や生活面での問題の指導もできるよう、努めていきたいと思っています。昔でいえば、「初老」と言われる年齢ですが、当院の救急医療に貢献できるよう、頑張っていきたいと思っています。至らない点も多いと思います、各科の先生、コメディカルスタッフのみなさん、よろしく願いいたします。



外科
いのうえ みつひろ
井上 光弘

本年4月より、外科にて勤務させて頂く井上光弘と申します。県内の色々な病院で勤務しましたが、熊本

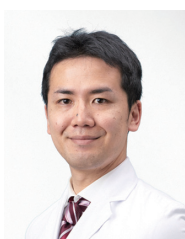
医療センターで働くのは初めてになります。一度働いたことがある先生が多い中、初めての病院でわからない点が多々あると思われ、ご迷惑をおかけすると思いますが、早く慣れて消化器外科診療、救急診療、内視鏡外科治療などで貢献できるように頑張りたいと思います。診療において、忙しい中でも一人ひとりの患者さまに寄り添えるように日々心掛け、患者さまが満足して退院されるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



整形外科
たばた しょうご
田畑 聖吾

整形外科の中では脊椎領域を、特に低侵襲脊椎手術を専門としており、橋本部長の下で脊椎外科が増員となり身の引き締まる思いです。臨床では、内視鏡を用いた腰椎椎間板ヘルニア摘出術(MED)や腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡視下椎弓切除術などを行って

ります。頸椎でも頸椎症性神経根症、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症に対しても、内視鏡下椎間孔拡大術、ヘルニア摘出術、椎弓切除術なども行っております。骨粗鬆症性椎体骨折(圧迫骨折)に対しては、経皮的椎体形成術(BKP)を行い早期に除痛とADL改善することが可能です。また脊椎外傷や腰椎迂り症など脊椎固定術の適応時は、経皮的椎弓根スクリューを用いた低侵襲脊椎安定術(MiST)で低侵襲な治療が可能となっております。内視鏡、顕微鏡、MiSTを用いて、高齢者や合併症の多い患者さまにも低侵襲で安心、安全な治療を提供できるよう頑張っていきたいと思



腎臓内科
いたい ようへい
板井 陽平

熊本大学医学部付属病院より、国立病院機構熊本医療センター腎臓内科に赴任いたしました、板井陽平と申します。2005年に熊本大学を卒業いたしました。

当院腎臓内科は透析シャント関連の手術数が大変多く、全国的に見ても有数ではないかと思っています。当院を受診された患者さまにより医療を提供できるよう、腎臓内科だけでなく他科の先生方やコ・メディカルのみなさまと連携をとりつつ、努力したいと考えております。よろしく願い申し上げます。



小児科
かしき ひとし
榎木 仁

本年4月から小児科で勤務させていただく榎木仁と

申します。熊本医療センターでは、まだ右も左もわからない研修医時代に1年間ご指導いただきました。10年ぶりにお世話になることとなりましたが、約1週間ほど久しぶりに当院で過ごしてみて当時と変わらずにぎやかで慌ただしい活気ある雰囲気には圧倒されております。当院小児科で特に力を入れている免疫、アレルギー分野を中心に学ばせていただくと同時に、少しでも当院の体制に役立つよう精いっぱい頑張っていきたいと思

研修のご案内

第130回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年5月16日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「意識障害で搬送され急変した80代男性」

（80代 男性）

臨床担当） 国立病院機構熊本医療センター消化器内科

久木山直貴

病理担当） 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長

村山寿彦

「アルコール性肝障害で治療中の80代男性が意識障害で入院となった」

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第193回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成30年5月17日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「免疫チェックポイント阻害剤と糖尿病」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

大久保侑馬

2. 「認知症～糖尿病との関連を含めて～」

医療法人医誠会 みつぐまち診療所 所長

津野田尚子 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501（代表）内線5441

第231回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年5月21日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 神経内科の1例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

竹内陽介

「第2症例 クロンカイト・カナダ症候群の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

村上 瑛、富口 純

2. ミニレクチャー「高齢化社会とサルコペニア」

国立病院機構熊本医療センター総合診療科

國友耕太郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第160回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成30年5月23日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「産婦人科・泌尿器科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

西村 弘

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長

菊川浩明

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第11回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2.0単位認定〕

日時▶平成30年5月26日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長

野津原 昭 先生

演題：「心不全」

1. 心不全の診断と治療

川崎医科大学総合内科学3教授

小島 淳 先生

2. 弁膜症の外科的治療

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

2018年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室
1日(火)		
2日(水)		
3日(木)		
4日(金)		
5日(土)		
6日(日)	9:00~13:00 第19回 熊本PEECコース	
7日(月)		
8日(火)		
9日(水)	18:00~19:30 第110回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
10日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「医療連携について」 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 渡邊健次郎 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
11日(金)		
12日(土)	9:30~14:30 第42回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉1. 心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 松川将三 2. 各種心疾患における心電図 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 3. 不整脈 すえふじ医院 院長 末藤久和 先生	
13日(日)		
14日(月)		
15日(火)		
16日(水)	19:00~20:30 第130回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
17日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「輸血療法について」 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 日高道弘	19:00~20:45 第193回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
18日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」
19日(土)	9:00~17:00 第98回 救急蘇生法講座 ~二の丸ICLSコース~ 講師 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター長 原田正公 ほか	
20日(日)	10:00~12:00 第282回 熊本県滅菌消毒法講座 「どうすればいいのか単回使用器材」	
21日(月)		19:00~20:30 第231回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	
23日(水)	18:30~20:00 第160回 救急症例検討会 「産婦人科・泌尿器科救急疾患」	
24日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「院内感染対策について」 国立病院機構熊本医療センター感染制御室長 水上智之 14:00~15:30 第62回 市民公開講座 「脳血管内治療について」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 中川隆志 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会〈第1回症例検討会〉	
25日(金)		
26日(土)	15:00~17:30 第11回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「心不全」 [日本医師会生涯教育講座2.0単位認定] 座長 野津原内科医院 理事長 野津原 昭 先生 1. 心不全の診断と治療 川崎医科大学総合内科学3教授 小島 淳 先生 2. 弁膜症の外科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実 18:30~20:30 摂食嚥下特別講演会 座長 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 「高齢者の「食」を多角的に観る・診る・看る ~「食べる力」の見える化と地域・職種間連携の構築~」 公立能登総合病院歯科口腔外科診療部長 長谷剛志 先生	
27日(日)		
28日(月)		
29日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
30日(水)		
31日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「輸血療法について」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎	

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)